

命の大切さを 事故遺族語る

松江・東出雲中

飲酒運転の車による交通事故で次女を亡くした出雲市斐川町の住職江角弘道さん(70)が12日、松江市東出雲町の東出雲中で講演した。在校生と教職員約550人に命の大切さを訴えた。



江角さんの次女真理子さん(当時20)は鳥取大3年生だった。1999年の暮れ、同級生の車でドライブ中、中央線をはみ出した飲酒運転の対向車と正面衝突。友人2人とともに亡くなった。

江角さんは「現場付近に近づけなくなると語り、「当たり前」の命ではなく、周囲のおかげさまで生きていくことを忘れないで」と呼び掛けた。生徒会長の3年武田

聖貴君(14)は「自分たちには遺族の思いを伝える役目がある。命がある上でどう生きていくのかを教えられました」と講演のお礼を述べた。(西村萌)